

養育者の心理的・精神的問題等の有無

	全 体	市	町	村	セ ン タ ー
調 査 数	1228	606	64	0	558
あ り	806 65.6	371 61.2	42 65.6	0	393 70.4
な し	75 6.1	41 6.8	6 9.4	0	28 5
不 明	342 27.9	190 31.4	16 25	0	136 24.4
無 回 答	5 0.4	4 0.7	0	0	1 0.2

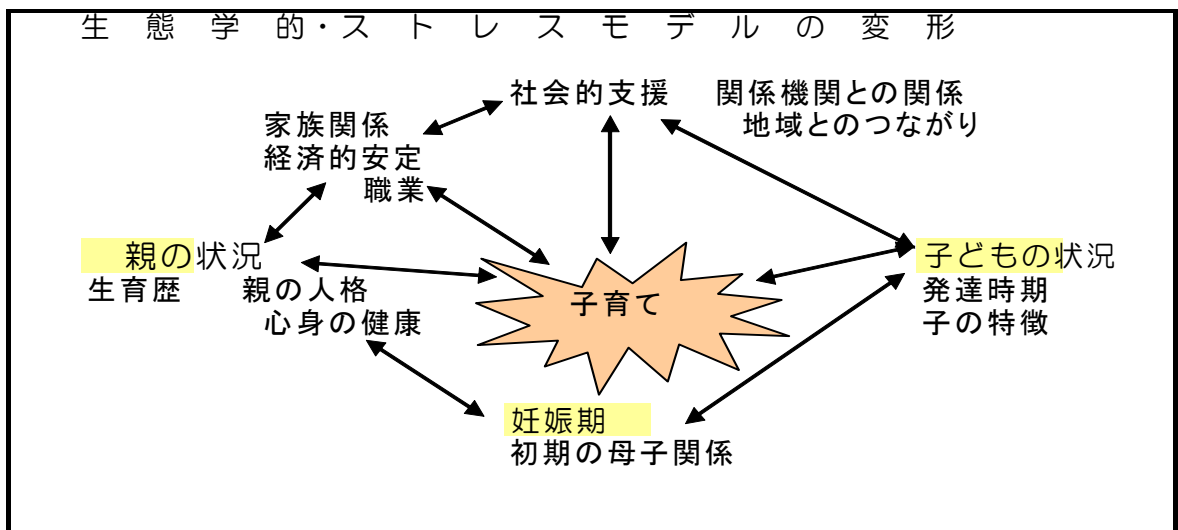
(5) 各項目間の関係

説明: 養育モデルからみる、各項目の関連についての検討について

虐待はさまざまな要因で発生することは、先行研究やこれまでの調査から明らかになり、現在は生態学的な見地から虐待を理解していくことが主流となっている。Bronfenbrennerらは、ミクロ、メゾ、エクソ、マクロシステムから、この問題を捉える必要があるとした。さらにベルスキーらも生態学的な見地から子育ての成立条件として、子ども、親、家庭、社会支援についてのモデル図を示している。そこで本調査では、子ども、親、親子関係（妊娠前後を含める）、家族（夫婦、経済、職業、家族構成）、生活環境（養育支援者、関係機関との関係）の項目から、その虐待の要因分析を試みた。

時間的制限や、一般的にわかりやすくするという観点から、その項目はできるだけ具体的に選んだ。それぞれの項目が虐待発生にどのように影響を与えているのかという点について説明するために、その要因を子ども、養育者、その他の生活状況、支援状況などをモデル図式にあてはめた。

分析枠組み



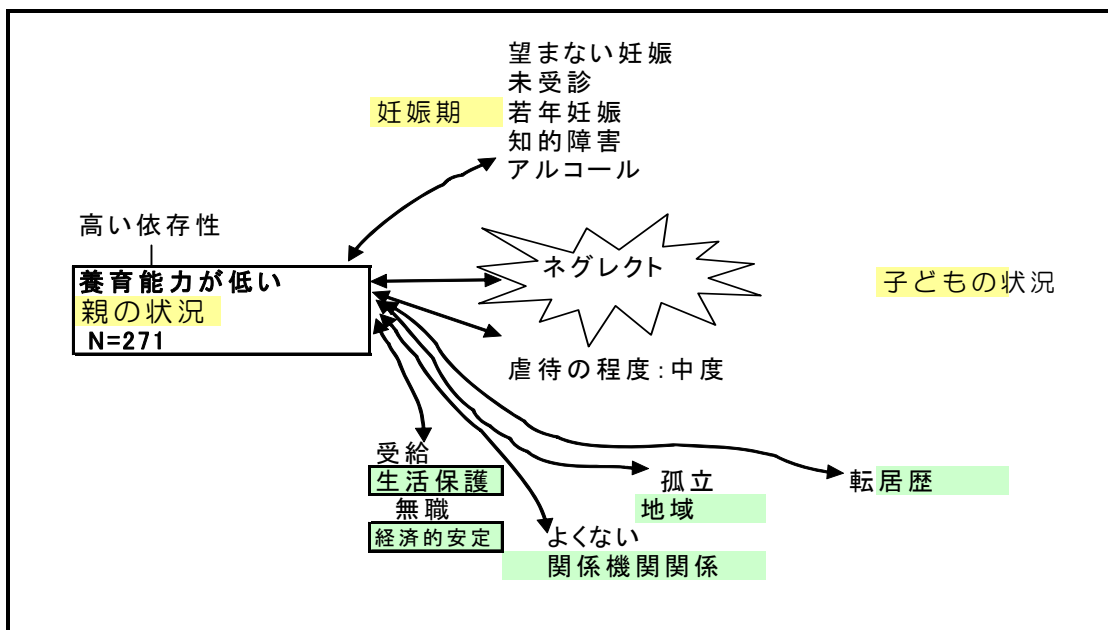
上位5位までの項目についてそれぞれクロス集計からの検定を行い、有意なものについて関係づけを行った（クロス結果は別表）。

親領域				子ども領域				妊娠出産			
対象数		848		対象数		458		対象数		168	
1位	養育能力が低い	271	32.0%	不登校	90	19.7%	望まない妊娠	46	27.4%		
2位	感情の起伏が激しい	249	29.4%	障害	86	18.8%	若年妊娠	24	14.3%		
3位	怒りのコントロール不全	166	19.6%	指示に従わない	76	16.6%					
4位	攻撃性	154	18.2%	無表情、表情が乏しい	72	15.7%					
5位	精神疾患	152	17.9%	多動	57	12.4%					

親（養育者）からみた要因

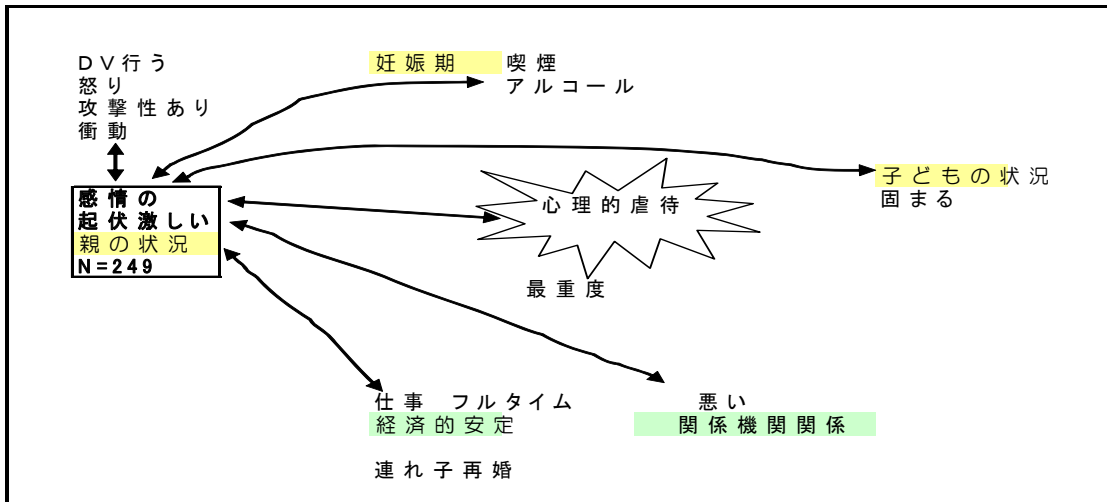
① 養育能力の低さ

養育能力が低い場合には、親の項目では依存性が高いが関係した。また、妊娠期には、望まない妊娠、若年妊娠、妊婦健診未受診、知的障害、アルコール依存などのリスクが高い。生活環境では、経済的に苦しく、孤立しがちであることがわかる。子どもの問題については特に関係が高いものはなく、まんべんなく特徴が現れた。



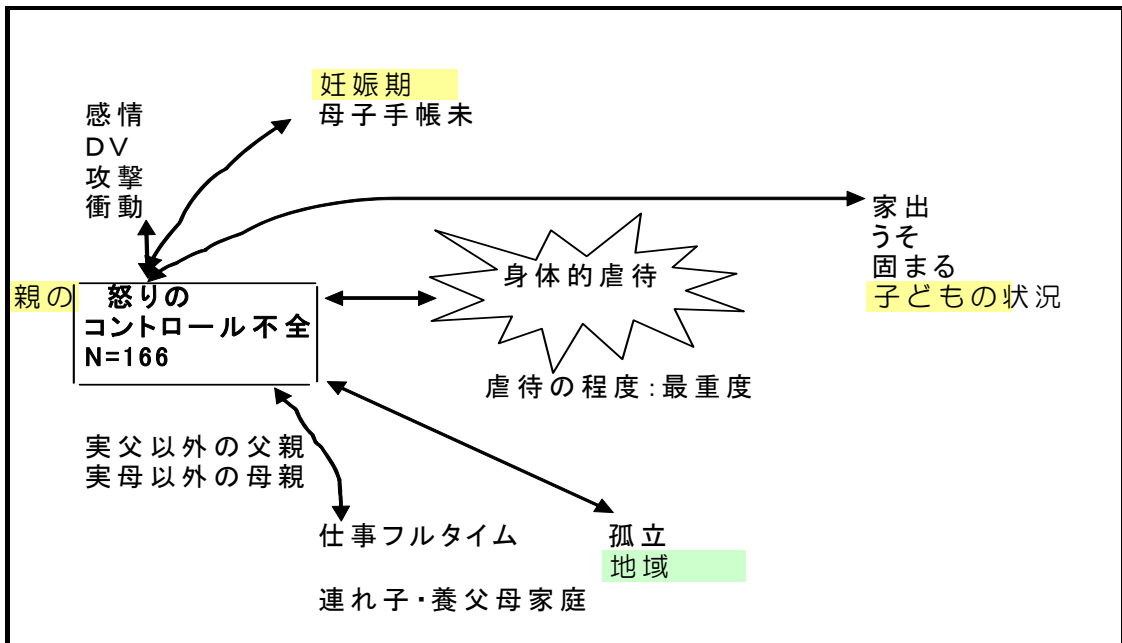
② 感情の起伏が激しい

感情の激しさは、DVを行う、怒り、攻撃性、衝動性とも関係した。妊娠期では母は喫煙、アルコール依存傾向にあった。心理的虐待との関係が高く、子どもの問題は表情が固まるという点と関係があった。仕事ではフルタイムが多く、関係機関との関係は悪い傾向にあった。



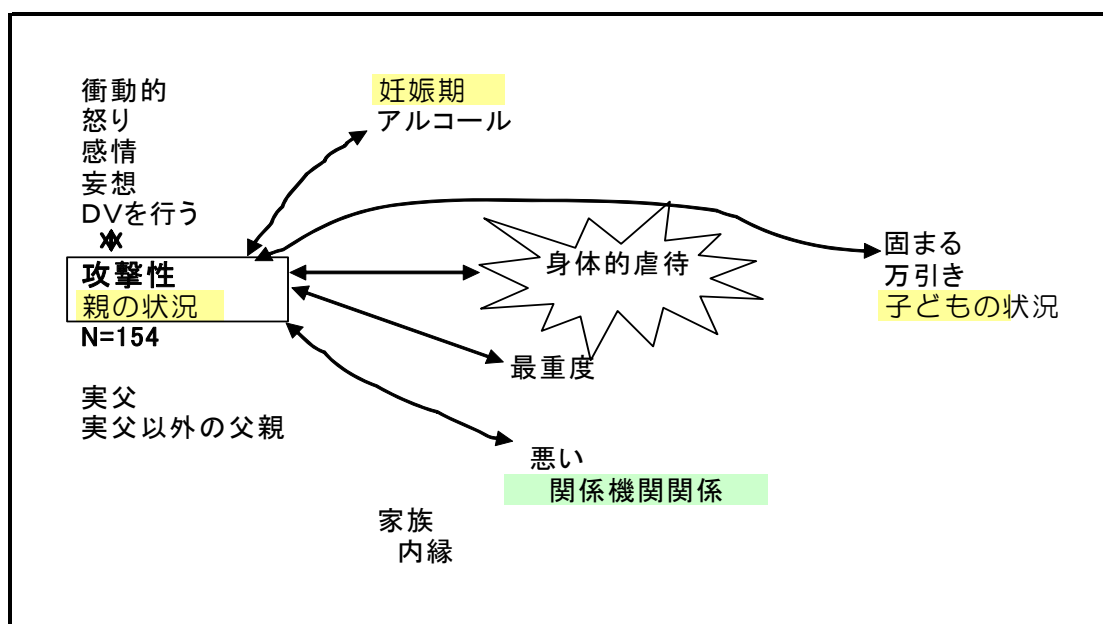
③ 怒りのコントロール不全

怒りのコントロール不全は、感情、DVを行う、攻撃性、衝動性の高さとも関係し、身体的虐待に多くみられた。また加害者は、実父以外の父親、実母以外の母親と関係も高く、最重度と関係が強かった。地域では孤立しがちであった。



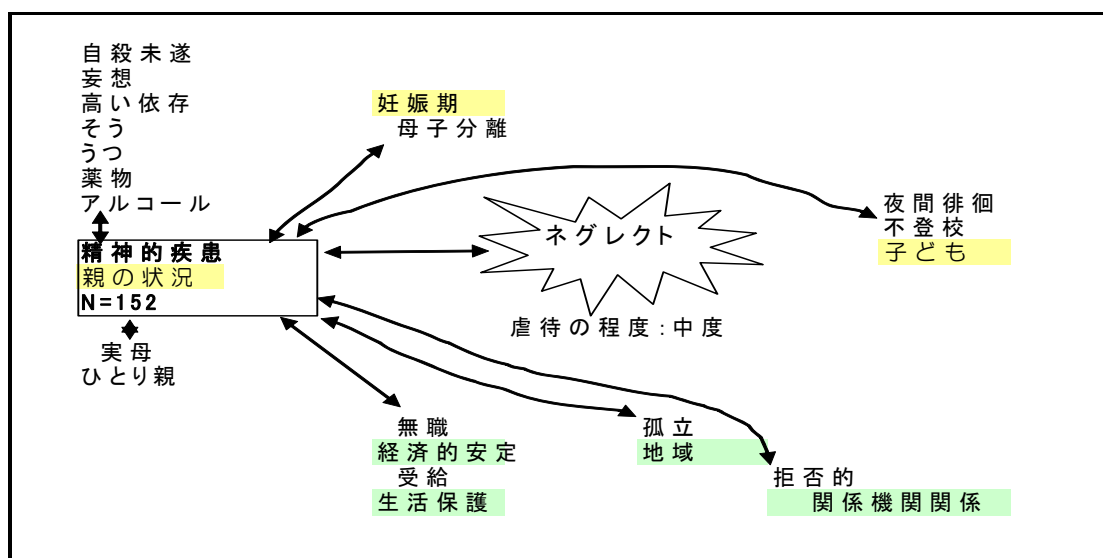
④ 攻撃性

親の攻撃性は、衝動的、怒り、DV、妄想などに関係があった。また加害者は、実父や実父以外の父親が多く、最重度との関係の傾向がみられた。関係機関との関係は悪い。また子どもについては固まる、万引きという行動があった。



⑤ 親の精神疾患について

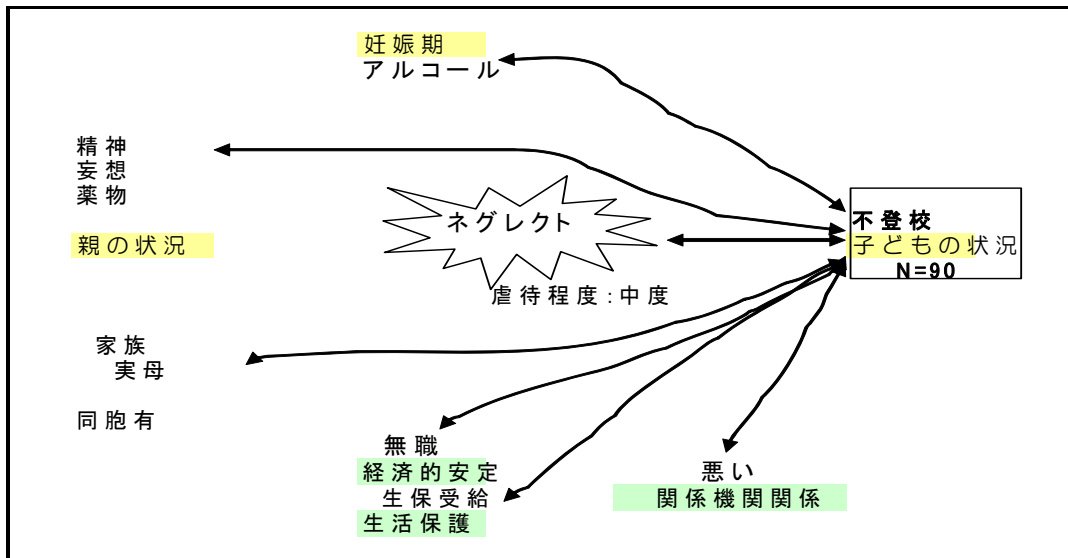
親の要因は妄想やうつなどの精神的な問題との関係がみられる。子どもについては不登校、夜間徘徊といった問題行動と関係がある。また生活基盤が不安定となっている。虐待の種類はネグレクトとの関係が強かった。



子どもからみた要因

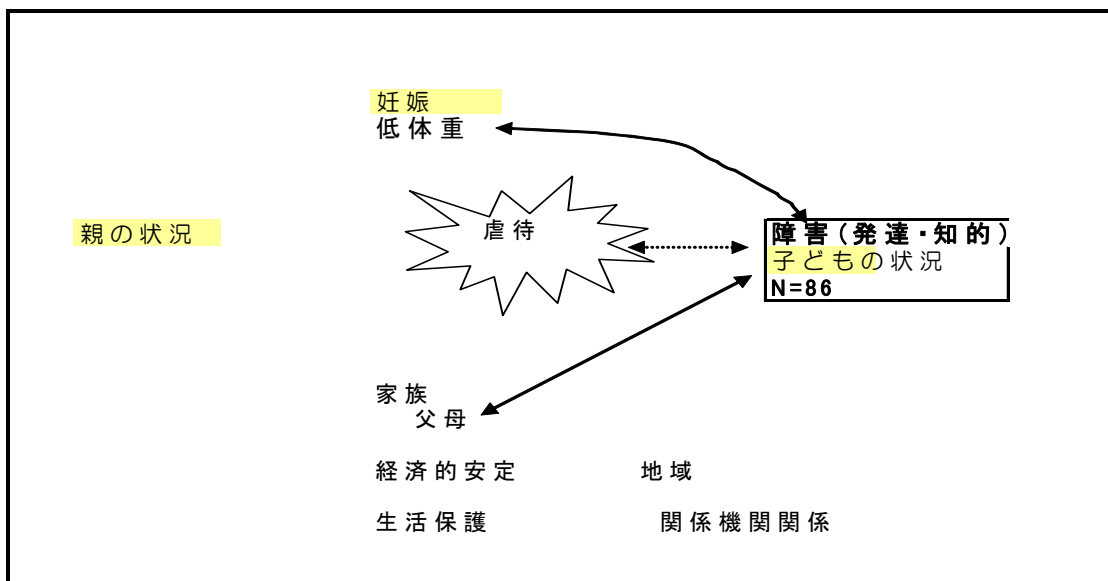
① 不登校

子どもの不登校と他の項目との関係をみると、親の状況は精神状態、妄想、薬物と関係がみられ、ネグレクトと関連が高い。また家族状況では無職、生活保護で、関係機関との関係は悪い状況にあった。



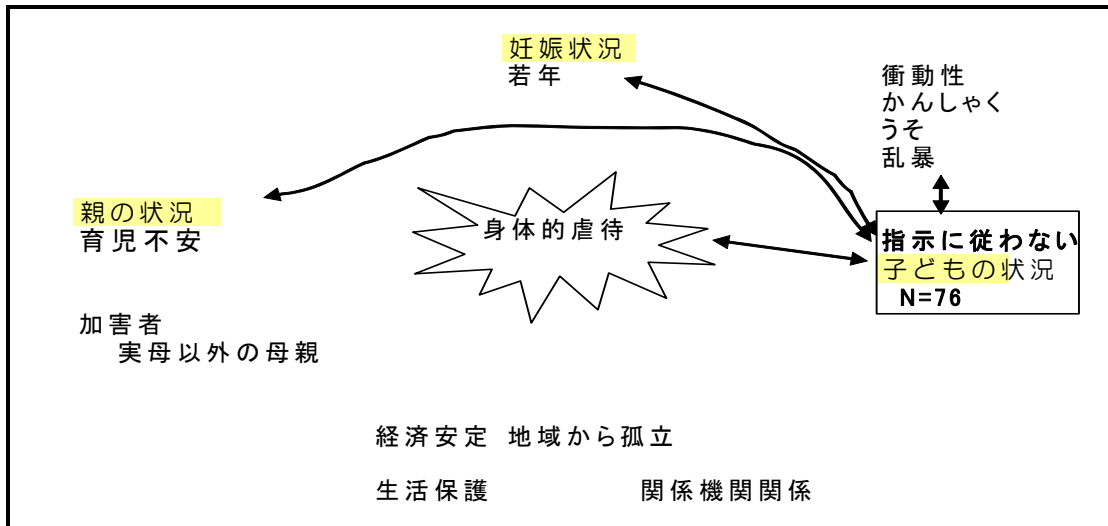
② 障害

子どもの障害（外見적으로는わかりにくい知的障害、発達障害など）との関係では、両親がおり、低体重で出産と関係した。生活状況の特徴はみいだされなかった。



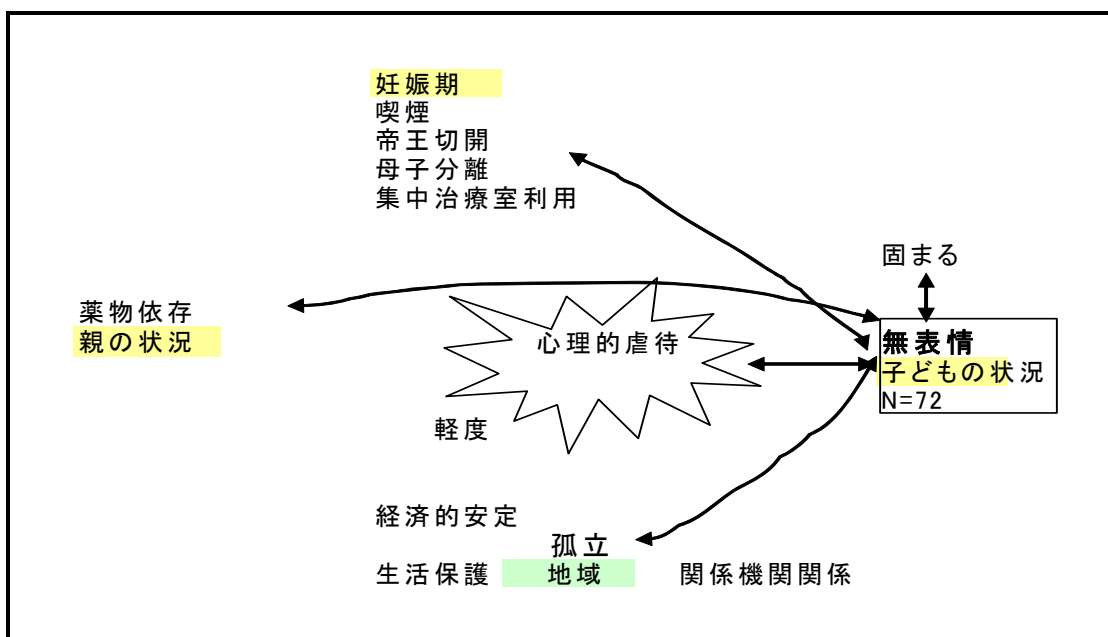
③ 指示に従わない子ども

若年の妊娠との関連が高く、子どもの特徴では衝動性、かんしゃく、うそ、乱暴であり、親は育児不安が高かった。虐待の種類では身体的虐待と関係がみられた。



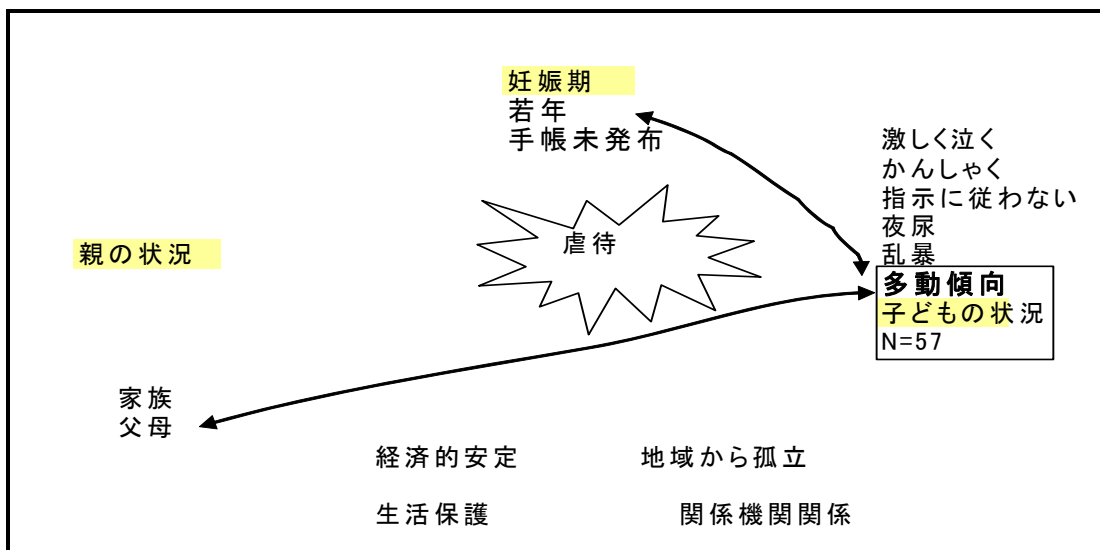
④ 無表情な状況

子どもが無表情・表情が乏しく、固まってしまうような親子関係での困難さを浮かびあがらせている。虐待の種類では心理的虐待、親には薬物依存との関係があった。また生活状況では地域から孤立した生活の傾向にある。



⑤ 多動傾向にある子

子どもの状況では激しく泣く、かんしゃく、指示に従わない、夜尿、乱暴などの関係があり、親は若年出産、母子手帳未発行との関係があった。



妊娠・周産期からみた要因

① 望まない妊娠/ 計画していない妊娠

妊娠関係の問題については、回答数は少なかった。しかし、その中では望まない/ 計画していない妊娠については、妊婦検診が未受診であり、親は養育能力が低く、就業状況・生活は無職、孤立的な生活であった。子どもは衝動性が高く、かんしゃくがひどい傾向がみられた。

